

2016年12月13日
 株式会社 JR 東日本ウォータービジネス

エキナカ自販機「acure <アクキュア>」の JR 東日本ウォータービジネス 東京駅に自販機向けバッテリーユニットを設置

- 株式会社 JR 東日本ウォータービジネス（本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:鈴木浩之）が開発した電源不要で自販機を稼働できる「自販機向けバッテリーユニット」で稼働する自販機を 2016 年 12 月 14 日より東京駅に設置します。
- 2017 年度中の量産着手に向け、駅で実際に稼働する自販機にて運用試験を行っていきます。

● 自販機向けバッテリーユニットとは

お客さまにとって、もっと身近でもっと便利な自販機を目指したい、場所の制約に縛られず、飲料を届けていきたいという思いから、JR 東日本ウォータービジネスが古河電池株式会社（本社:神奈川県横浜市保土ヶ谷区、代表取締役社長:徳山勝敏）と共同開発を行った自販機専用のバッテリーです。

今までの常識を覆し、自販機を通じて、いつでもどんな場所でもお客さまに“うるおい”を届けていきます。

● 設置場所

東京駅丸の内北側の 1・2 番線中央線ホームへのエスカレーター横に設置します。

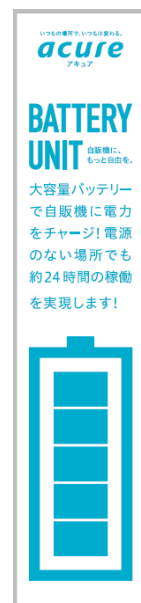
現在改良工事が進められているエリアであり、電源の確保が課題でしたが、自販機向けバッテリーユニットによってお客さまへ飲料を届ける事が可能となりました。



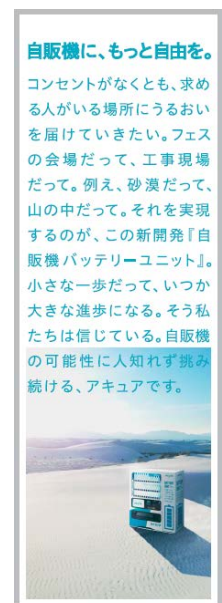
● 自販機向けバッテリーユニットの特徴と仕様

- ・既存のトラッシュボックス（弊社自販機専用ゴミ箱）と同サイズのキャビネットに、大容量のリチウムイオン二次電池モジュールを 10 基搭載。
- ・約 24 時間の稼働が可能です。
- ・電源による制約を受けず、自由な自販機設置が可能です。
- ・配線工事不要でかかるコストの大幅な削減に繋がります。
- ・大容量の電気供給ができるため、災害による停電時でも稼働が可能となり、自販機によるお客さまへの飲料提供が継続できます。

寸法	幅 370mm×奥行 650mm×高さ 1830mm
重量	約 200 kg（電池モジュール込み）



【ユニット正面】



【ユニット側面】

●自販機研究者・野村誠氏のコメント

このバッテリーユニット稼働の自販機は革命を起こす可能性を秘めていると感じます。自販機がある場所といえば、エキナカや家や商店の脇、電柱の下、光る看板の近くなど、電気が簡単に取得できる場所でありました。しかし、このバッテリーユニット稼働があれば自販機は電源がなくても設置できます。それによって自販機を設置できる場所が増えて、例えば大きなイベントやマーケットなどその場所や特性に応じたモノの販売・流通にも将来的に期待できるのではないかと想像が膨らんでいきます。もちろん商業的な利用だけではなく、災害時などの緊急事態時も活躍してくれると思います。今まで想像もつかなかったオリジナル商品の自販機ももっと増えるかもしれません。このバッテリーユニット稼働自販機の活用、さらなる自販機の進化に期待をしています。



野村誠氏プロフィール

自動販売機紹介 HP「山田屋」主宰。約 15 年前から同 HP で全国の変わり種自販機を紹介。TBS テレビ「マツコの知らない世界」ほか、各種メディアでも出演。「自販機探しは宝探し」に似ているという考えで、いまま現役の絶滅危惧種となるような自販機を探して、週末には地方を駆け回っている。

【お問い合わせ先】

株式会社 J R 東日本ウォータービジネス 企画部
担当：和方・河野 T E L : 03-6853-6005